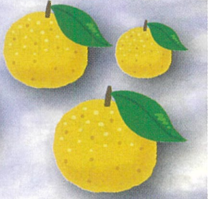
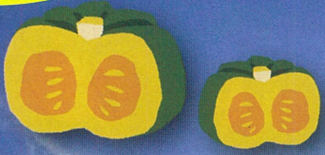


# 未来へ希望をつなぐ日

## 【冬至】(一陽来復)



毎年12月21日前後にある二十四節気のひとつを「冬至」といいます。「冬至」を境に日が伸びはじめ、太陽の力が蘇るとも考えられていることからこの日を「一陽来復」と呼びます。よくないことが続いた後によろしく幸運が向いてくる。未来への希望をつなぐ日とも考えられています。

令和3年師走号 発行者／網代和夫 編集／あきる野市町内会・自治会連合会 広報部会

### 児童等の見守りと事故・犯罪抑止の防犯強化推進事業

## 網代地区「わんわん&ウォーキングパトロール」スタート

網代自治会長 細田 泰弘

網代地区は、山間部が約80%と緑豊かな地域で、皆様がよく御耳にするのは『弁天山』、五日市音頭には“青葉網代の岩陰木陰、舟に寄り添う紅傘日傘”と謳われた地区です。

令和元年10月の台風19号の豪雨により、メイン道路に掛かる網代橋が崩落し通行不能となり、通学・通勤や買い物等に支障をきたしていました。

本年3月に人道橋(仮橋)が開通し通行可能となりましたが、大通りに出るまで人家もなく樹木が生い茂る薄暗い箇所があり、人通りも少なく且つ車両の通行も無い



ため事件事故への抑止力も低く、児童・婦女子の通行に安心安全の確保が懸念されていました。

そこで、地区賛同者の協力を得て、犬の散歩やウォーキングを防犯・見守りを兼ねたパトロールの機会として充てて、見守り活動を世間にアピールすることにより地域一丸となった取り組みとして、安心安全への意識強

化とコミュニティ活性化につながるものと考えました。

具体的な施策として、あきる野市の『コミュニティ事業交付金』を活用し、ロゴ等を付けたベスト及びキャップを着用した『わんわん&ウォーキングパトロール』と称した防犯活動を展開することとしました。スタートに当たり、五日市防犯協会会長を始め、五日市警察署・あきる野市役所の地域防災課長を来賓として御招きし出発式を執り行いました。



パトロール実施者ユニホームとキャップ

## 余 瀝

感受性について書いてみたいと思います。詩人の茨木のり子に「ばさばさに乾いてゆく心を ひとのせいにはするな みずから水やりを怠って(中略)

自分の感受性ぐらい自分で守ればかものよ」という詩があります。人は往々にして、触れば傷つき血が噴き出るようなあの少女少女期の瑞々しい感受性を年経ることに喪失してゆく傾向があります。しかし、コロナ禍の中で、多くの方が鈍っていた感受性を再び磨かれたのではないのでしょうか。▼世界で約2億5千万人の人が感染し、約5百万人の人が亡くなったことは、人間に自然環境を守り、動植物を慈しみ、この世に存在するありとあらゆるものに心を致すよう変容を促したのではないのでしょうか。デンマークの若き環境活動家のグレタ・トゥンベリさんもこのまま温暖化が進めば地球環境が破壊されると鋭い感受性で悟ったのでしょう。この世に存在するありとあらゆるものを慈しみ愛でる心、戦争・暴力・いじめ・ヘイトスピーチ・ハラメントを憎む心、それは豊かな感性、感受性を研ぎ澄ますことによつて生まれるものなのでしょう。▼豊かな感受性は町内会・自治会活動にも求められることです。経歴も年齢も好みも違う人間同士が居住を同じゅうすることを通して交わり、利他の心で会員の置かれた状況や思いを汲み取り、地域をより住みやすく明るいコミュニティにしてゆく活動には豊かな感受性が求められます。▼日頃から水やりを怠ることなく豊かな鋭い感受性を培いたいものです。

## 花壇づくりの思い

西ヶ谷戸町内会 会長 佐藤 富治

当町内会では、役員を中心に花壇づくりに積極的に取り組んでいます。優良賞、優秀賞そして、令和3年度は最優秀賞花壇の栄誉に輝きました。コロナ禍で優秀花壇常連の町内会の不参加もありましたが、どこにも負けない花壇づくりに、役員は黙々と作業に取り組んだ結果とも思っています。



我が町内会の花壇づくりのコンセプトは、皆さんが日頃から目にしているものを花で表現したり、その年の大きなイベントなども考慮し構想を決めています。オリンピックが開催された今年、五輪の輪をイメージし、丸い輪はニコニコマークも連想できますので、花で5輪を描きそしてニコニコマーク



も表現しました。調達の関係で、届いた花の色や種類を確認してから配置、色の配分を考えます。それぞれの花の成長も考慮しなければバランスも崩れます。

植え付け後の方が大変です。天気が続けば朝晩の

水やりも役員が分担して行い、追肥そして雑草の処理。きれいに維持するにはそれは大変な作業です。

そんなことも苦しめない役員の方があって、花も咲いてくれると思います。

役員も任期がありますが、西ヶ谷戸の花壇はいつも綺麗だと言っただけのような花壇づくりを続けていきたいと思っています。



## 今年の自治会花壇を振り返って

油平自治会文化福祉部 副部長 古山 正典

花壇は秋川駅南口の運動広場東側にあります。花壇で作業していると通りすがりの方々が声をかけて下さるそんな憩いの場所です。

訪れた方が、ふと目を留めていただける様に配色に心掛け、考えたイメージに合う色の花選びと必要な苗数を調べます。そして苗の手配・購入へと進む中、涼しさを表したい「青」の花が決まらず、大変苦慮し、ロベリア（青・白）にしました。



花壇を耕し整地し、苗の成長を考慮して配置し、皆の協力で植え付け作業はどんどん進みます。そのスピード

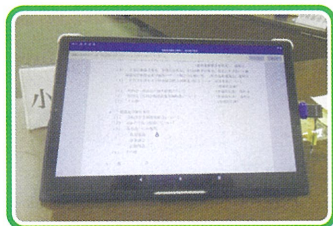
感には驚き、忙しかったがとても楽しかった。水やりは当番制で毎日行い、花の手入れは週2回行いました。

次第にこんもり茂って日々きれいに成長する私達の花壇が、コロナ禍で疲れ切った人々に元気と癒しを与える「あきる野癒しのパワースポット」になればと思いを込めました。

良い経験をさせていただきました。



## 連合会役員会議でタブレット端末機を導入・活用へ



今年6月の役員会議から全役員18名にタブレット端末機を貸与し会議を開催しています。

これは国や東京都から呼びかけられているデジタル技術を用いて様々な作業や業務の改善・効率化を図るための一環として導入したものです。

具体的には、役員会議（正副会長会議を含む）では紙の資料は配付せず、当日会場で各自のタブレット端末機に自ら会議データを取り込み、次にUSBメモリーに保存し会議時は各自がタブレットの画面を見ながら説明を聞き、討議に参加するものです。これにより将

来は、役員会での紙での資料配付は基本的に無くし“地球にやさしい”ペーパーレス会議にして参ります。

しかし、まだ全役員が自由に端末を操作できる状況ではなく、市職員のサポートをいただく場合も多々あるのが実態です。

これからの時代を見据えると、連合会役員会だけでなく、地区会長会や各町内会・自治会においても其々の組織環境を踏まえ、役員や会員の意見に耳を傾けながら一歩一歩デジタル技術を活用した組織運営や活動改善を進めていく必要があります。



## 編集後記

新型コロナウイルスの影響を受けて、ほぼ二年間、イベントが中止。会報の記事は出来事について取材協力をお願いし読み易い形にしたいと思いを込めて進めていきます。この状況下、当のイベントが残念ながら激減。情報源は様々な処に有ると思

い普段の身近な生活の中での暮らし方、過ごし方にヒントを得て記事を提供して頂きました。ご協力に感謝致します。皆様方のご意見情報にアテナを高くし親しまれる記事になるよう努めて参ります。来春以降は何かしらイベントが出来る事を祈りつつ、よいお年をお迎えください。佐藤 富治 広報部会